

研究種目：基盤研究 (B)
研究期間：2005～2008
課題番号：17320020
研究課題名 (和文) 空間思想の比較史的検討とそれに基づく人文・社会科学理論の構築
研究課題名 (英文) Comparative Historical Approaches to Ideas of Spaces and Construction of new Human and Social Sciences
研究代表者 山室 信一 (YAMAMURO SHINICHI) 京都大学・人文科学研究所・教授 研究者番号：10114703

研究成果の概要：

専ら時間軸上で構築されてきた従来の学的パラダイムを空間軸に沿って見直し、これまでの空間把握の営みの成果を取捨選択しつつ、人文・社会科学における諸概念を再構成していくための基底的研究を進めた。文献会読、フィールドワーク、個別研究を通じて、政治学・経済学・農政学・地政学や、景観・海域・宗教・戦争で問題とされた空間に関する思想や実践のありかたを明らかにしつつ、従来前提とされていた諸概念を再検討した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	3,300,000	0	3,300,000
2006年度	2,900,000	0	2,900,000
2007年度	2,300,000	690,000	2,990,000
2008年度	1,900,000	570,000	2,470,000
年度			
総計	10,400,000	1,260,000	11,660,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・思想史

キーワード：空間、統治システム、地政学、景観、思想史、海域世界、宗教、農政学

1. 研究開始当初の背景

地域 region という概念の語源である regio は、至高の権威を授かった王 rex が境界を画定し祭事を司る行為としての regere fines, regre sacra から発しており、また日本において統治を示す概念が空間に

ついて知ることである「治(しら)す」としていたことなどからも明らかのように、空間をいかに認識する力を持つかということは、統治のあり方を決する重要な要因となってきた。また国民国家と植民地の形成が同時並行的に進んだ近代においては、空間管理の技

法とその実践とによって、資本と政治権力による空間的ゾーニングとその域内での監視体制の強化が進められた。こうした空間認識の再編成は同時に自己の認知可能な空間の拡大運動となっていた。その過程において人々は、身体的に体感不可能な空間を自己に馴染みやすい空間へと変換することを強いられ、理論家たちも空間認識の変容と提示を迫られていった。

しかしながら、近代の人文・社会の諸科学は、さまざまな空間を空間そのものとして捉えることを回避し、対象となる同時代の空間的差異を文明—未開、進歩—停滞といった時間軸に沿った関係に置き換えてきた。また近年、グローバル化の進展で領域的支配をもたない超境界的な「帝国」の支配に目を奪われるあまり、さまざまななかたちで生起してきた空間を分節化するダイナミズムが一層見失われる趨勢にある。

2. 研究の目的

本研究の目的は、専ら時間軸上で構築されてきた従来の学的パラダイムを空間軸に沿って見直し、これまでの空間把握の営みを拾い上げつつ、人文・社会科学の諸概念を再構成するための基底的研究を進めることにある。住居から農地、自然環境、植民地、海域、大陸にいたる、さまざまなレベルの空間に投げかけられた思想的営為を網羅的に比較分析することを通して、従来の人文・社会科学を「空間」なる視座から再検討する。こうして身体から始まって家族・社会・国家・世界に至る「空間」編成をめぐる思想や概念を社会的コンテキストから逆照射し、グローバル化に対応した「新しい空間思想」に基づく空間把握・認識理論の構築を試みる。

3. 研究の方法

近代における政治・経済・文化の国外進出過程

のなかで、当事者たちが紡ぎ出した表象としての空間を、現地調査によって実際に彼らの空間イメージの生成過程を追体験しながら、整理する。また、空間思想が生成し、展開していく現場である経済活動や生活世界に注目していくため、政治学・法学、経済学、民俗学、宗教学、農学、海域世界論の専門家を、日本・アジア・イスラーム世界・ヨーロッパと研究地域が偏りなく網羅されるように集め、それぞれの各分野に現れた空間思想を比較思想的に分析していく。

4. 研究成果

多数の文献資料の検討と、十数回にのぼる国内外におけるフィールドワークによって、質・量とも充実した研究成果をえた。すなわち、これまで時間軸で構成されてきた社会認識を空間軸の導入によって再構築を試みつつ、空間把握の思想的展開を、政治学、経済学、民俗学、農学さらにイスラーム思想にも着目して総合的に再検討した。具体的には、「景観」「風景」など、空間をイメージする思想的営みをもつ政治的・経済的機能を明らかにしつつ、東洋／西洋、都市／農村という枠組みにとらわれることなく、海、山、河、草原、森、植物、動物、土壌などの自然構成要素が、日本・アジア・ヨーロッパにおける空間思想与えた影響を現地調査と文献読解の統合によって明らかにした。さらに、戦争と空間形成の関係についても考察をすすめた。一例として、ナチズムを比較的に検討する公開シンポジウムを開催し、研究成果の社会への還元も試みた。このように本科研プロジェクトによる研究成果は、たとえば研究代表者が編者となった岩波講座『「帝国」日本の学知』シリーズの第8巻『空間形成と世界認識』を公刊したように、多数の学術論文・単行本・翻訳書の公刊や学会報告のかたちで、学界や社会に向けて公表されている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計49件)

①Sinzo HAYASE, "Historic-Geographical World of Sangir: an Ethno-History of East Maritime Southeast Asia", A Journal of the Southern Philippines, XXVII, 査読有, 2005.

②谷川穰「説教の位相-筑摩県における教導職」佐々木克(編)『明治維新期の政治文化』思文閣出版 査読無 2005 231-261.

③藤原辰史「耕す体のリズムとノイズ-労働と身体」菊地暁(編)『身体論のすすめ』丸善 査読無 2005 122-135.

④山室信一「東アジアの流動性とつながり」『慶應大学東アジア研究所・世界のなかの東アジア』 査読無 2006 61-102.

⑤坂本優一郎「18世紀ロンドン貿易商の家族史-ファンネック家の事例にみる文化の境界と社会的結合」『人文学報』 査読無 91 2005 1-37.

⑥菊地暁「主な登場人物-京都で柳田国男と民俗学を考えてみる」『柳田国男研究論集』 査読無 4. 18-42 (2005).

⑦菊地暁「京大国史の「民俗学時代」」『国史研究室通信』(京都大学) 査読無 33, 2006.

⑧菊地暁「コスメティック・アグリカルチャリズム-石川県輪島市「白米の千枚田」の場合」岩本道弥(編)『ふるさと資源化と民俗学』吉川弘文館 査読無 2006.

⑨菊地暁「『嗜好』の試行-明治屋PR誌からみる<洋食>史」川村邦光(編)『日本の知的遺産としての洋食文化の研究』(2005年度サントリー文化財団人文科学・社会科学に関する研究助成研究成果報告) 査読無 2006.

⑩菊地暁「赤松智城論ノオト-徳大寺所蔵資料を中心に」『人文学報』 査読無 94 2007.

⑪菊地暁「近頃、気になることのいくつか-「民俗」「史学史」「組織」「メディア」「書物」」『artscape:book navigation』 査読無 2006.

⑫坂本優一郎「株主」川北稔(編)『歴史学事典 生産と所有』第12巻 査読無 2006.

⑬坂本優一郎「産業資本主義」「世界資本主義」「商業資本主義」「ジェントルマン資本主義」猪口孝ほか(編)国際政治事典 査読無 2006.

⑭坂本優一郎 文献解題:「森谷克己『アジアの生産様式論』」、「ウィットフォーゲル(平野義太郎・宇佐美誠次郎訳)『支那社会の科学的研究』」、「大塚久雄『共同体の基礎理論』」山室信一(編著)『空間形成と世界認識』(岩波講座『「帝国」日本の学知』)第8巻 査読無 2006.

⑮谷川穰「「透明ランナー」研究ことはじめ」『日本教育史往来』 査読無 161, 2006 1-3.

⑯谷川穰「明治10年代における僧侶の学校教員兼務-教育と仏教の近代史に向けての一視角-」『仏教史学研究』 査読無 49-1 2006 39-58.

⑰谷川穰〔文献解題〕「内田正雄『輿地誌略』」・「内村鑑三『地理学考』」・「牧口常三郎『人生地理学』」・「和辻哲郎『風土』」山室信一(編著)『空間形成と世界認識』(岩波講座『「帝国」日本の学知』)第8巻 2006.

⑱谷川穰「明治中期における仏教者の俗人教育」『人文学報』 査読無 94 2007 37-76.

⑲藤原辰史(書評)古谷博行著『ナチス期の農業政策研究 1934-36』社会経済史学 査読無 71巻5号 2006 119-121.

⑳藤原辰史(文献解題)「江澤讓爾『地政学概論』」「石川栄耀『国土計画-生活圏の設計』『改訂増補 日本国土計画論』」「柳田国

男『都市と農村』」 「R・W・ダレエ『血と土』」 山室信一(編著) 『空間形成と世界認識』 (岩波講座『「帝国」日本の学知』) 第8巻 査読無 2006.

(21) 藤原辰史 「稲も亦大和民族なり——水稲品種の「共栄圏」」 池田浩士(編) 『大東亜共栄圏の文化建設』 査読無 人文書院 2007 189-240.

(22) 藤原辰史 「学に刻まれた満洲の記憶——杉野忠夫の「農業拓殖学」」 山本有造(編) 『満洲-記憶と歴史-』 査読無 京都大学学術出版会 2007 292-323.

(23) Shinzo Hayase "The Philippine Society of Japan and the Philippine Information Bulletin" Ronald D. Holmes, ed., Diplomatic Relations between Japan and Southeast Asia: Progress and Challenges Through Half-a-Century 査読無 2007 76-97.

(24) 菊地暁 「今西錦司『村と人間』という邂逅—農村クライマックスの行方—」 『10+1』 査読無 49 2007 66-67.

(25) 菊地暁 「ニッポンの民俗写真、あるいは<民俗学者>としての写真家」 『写真空間』 創刊号 査読無 2008 86-101

(26) 谷川穰 「阪本是丸編『国家神道再考』」 『明治維新史研究』 42 査読無 2007 33-34

(27) 谷川穰 「〔報告要旨〕 明治前期の仏教と学校教育」 『宗教研究』 査読無 355 2008 126-128.

(28) 藤原辰史 「大地に軍隊を捧げた日——ナチスの収穫感謝祭」 小関隆編『記念日の創造』 査読無 人文書院 2007 55-86.

(29) 藤原辰史 「二〇世紀農学のみた夢と悪夢——ナチスは農業をどう語ったのか?」 野田公夫編『生物資源から考える 21世紀の農学 第7巻 生物資源問題と世界』 査読無 京都大学学術出版会 2007 179-205.

(30) 藤原辰史 「帝国収穫感謝祭の丘を訪ねてハーメルン紀行——ナチスが組織した熱狂と陶酔」 『季刊at』 査読無 10 2007 88-104.

(31) 山室信一 「20世紀における国際環境の変化と国民帝国・日本」 『ヨーロッパ文化史研究』 査読無 8号、東北学院大学ヨーロッパ文化研究所 2008.

(32) 山室信一 「東アジアにおける共同体と空間の位相」 『環』 査読無 35号 2008 189-201.

(33) 山室信一 「国民帝国・日本の展開と学知の位相」 『九州史学』 査読無 152 2009 27-38.

(34) 山室信一 「「近代」の奔流と逆流—六〇年代日本精神誌の一側面」 富永茂樹編『転回点を求めて・一九六〇年代の研究』 査読無 世界思想社 2009.

(35) 谷川穰 「「透明ランナー」は捉えられるか—勝手に走り出す戦後子ども史・オープン戦—」 『教育史フォーラム』 査読無 3 2008 21-34.

(36) 谷川穰 「北垣府政期の東本願寺—本山・政府要人・三井銀行の関係を中心に—」 丸山宏・伊従勉・高木博志編『近代京都研究』 査読無 思文閣出版 208 365-389.

(37) 菊地暁 「「おまえはすでに<民俗学者>だ」—<民俗学>の「可能性」なるものの語り方—」 『国文学解釈と鑑賞』 査読無 73-8 2008.

(38) 菊地暁 「京大国史の「民俗学」時代—西田直二郎、その<文化史学>の魅力と無力—」 丸山宏・伊従勉・高木博志編『近代京都研究』 査読無 思文閣出版 2008.

(39) 菊地暁 「洋食・日本・モダニズム—明治屋PR誌『嗜好』に見る—」 『VESTA』 査読無 72, 2008.

(40) 菊地暁 「書評：山路勝彦著『近代日本の植民地博覧会』」 『日本歴史』 査読無 727 2008.

(41) 菊地暁 「民俗学の最先端」 日本文化人類学会 [編] 『文化人類学事典』 査読無 丸善

2009.

(42) 菊地 暁 「歴史民俗学存疑」『宗教研究』
査読無 359 2009.

(43) 菊地 暁 「敵の敵は味方か? —京大史学科
と柳田民俗学—」小池淳一編『民俗学的想像
力』 査読無 2009.

(44) 坂本 優一郎 「金融」樺山 紘一 (責任編集)
『歴史学事典 第16巻 コミュニケーション』
査読無 (弘文堂) 2008 177-180.

(45) 坂本 優一郎 「財政革命・植民地・投資社
会: 18世紀後半のアイランド・トンチン年
金」法政大学比較経済研究所・後藤浩子 (編)
『アイランドの経験』 査読無 法政大学出
版局 2009 109-140.

(46) 藤原 辰史 「待機する共同体——ナチス収
穫感謝祭の参加者たち 一九三三—一九三
七」『人文学報』 査読無 96 2008.

(47) 藤原 辰史 『食の共同体——動員から連帯
へ』 査読無 ナカニシヤ書店 (共著) 2008.

(48) 藤原 辰史 「麦ばあさんはどこへ行ったの
か——村の収穫祭とナチズム」『ゲシヒテ』
査読無 2 2008.

(49) 藤原 辰史 「牛乳神話の形成——一九六〇
年代の食文化」『転換点を求めて——一九六〇
年代の研究』 査読無 世界思想社 2009.

[学会発表] (計2件)

① Shinzo Hayase "A Note on the Boundaries
and Territories in Maritime Southeast Asia
— From "Foreign Office: Confidential
Print Borneo and Sulu, 1844-1905" in
London", 28th National Conference on Local
and National History 2007年11月29日—
12月1日 Tangu City, Philippines

② 谷川 穰 「明治前期の仏教と学校教育」日本
宗教学会第66回学術大会 2007年9月16
日 立正大学

[図書] (計8件)

① 菊地 暁 (編) 『身体論のすすめ』 丸善 2005.

② 山室 信一 『日露戦争の世紀—連鎖視点から
見る日本と世界』 岩波書店 2005.

③ 山室 信一 (編) 『空間形成と世界認識』 (岩
波講座『「帝国」日本の学知』) 岩波書店 2006.

④ 早瀬 晋三 『戦争の記憶を歩く—東南アジア
のいま』 岩波書店 2006.

⑤ HAYASE Shinzo Mindanao Ethnohistory
beyond Nations. Quezon City Ateneo de
Manila University Press 2007.

⑥ 山室 信一 『憲法9条の思想水脈』 朝日新聞
社 2007.

⑦ 谷川 穰 『明治前期の教育・教化・仏教』 思
文閣出版 2008.

⑧ 藤原 辰史 翻訳 『ナチズム——地獄と神々
の黄昏』 水声社 (共訳) 2008.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山室 信一 (YAMAMURO SHINICHI)
京都大学・人文科学研究所・教授
研究者番号: 10114703

(2) 研究分担者

菊地 暁 (KIKUCHI AKIRA)
京都大学・人文科学研究所・助教
研究者番号: 80314227

坂本 優一郎 (SAKAMOTO YUICHIRO)
京都大学・人文科学研究所・助教
研究者番号: 40335237

谷川 穰 (TANIGAWA YUTAKA)
京都大学大学院・文学研究科・准教授
研究者番号: 10362401

藤原 辰史 (FUJIHARA TATUSHI)
京都大学・人文科学研究所・助教
研究者番号: 00362400

(3)連携研究者

早瀬 晋三 (HAYASE SHINZO)

大阪市立大学大学院・文学研究科・教授

研究者番号：20183915